

平成26年度事業計画

公益財団法人 北九州活性化協議会

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業	…………… P 1 1
1) 教育普及に関する事業の企画、運営	
2) 調査研究に関する事業の企画、運営	
3) 企画展示に関する事業の企画、運営	
4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営	

Ⅲ. 法人運營業務	…………… P 1 4
-----------	-------------

1. 会員募集と会員サービスの向上
2. 寄付事業の推進
3. 地域連携促進事業
 - 1) 「スポーツ振興チケット」事業
4. 新規指定管理事業の検討
5. 組織運営体制の強化
 - 1) 運営体制の整備
6. 会議等の実施

I. 概 況

経済のボーダレス化とグローバル化を背景とした経済・社会のパラダイムシフトが進む中で、6重苦と言われた厳しい経済環境に耐えてきた我が国経済は、政権交代による新しい経済政策、いわゆるアベノミクスの初期効果が奏功し、デフレからの脱出に向け大きく舵を切った。

円安と株価上昇を背景に、輸出産業を中心とした企業の経営環境も好転し、賃金改定など動きものの産業界に広がり始めている。

北九州地域においても、製造業を中心に景況感は好転してきた。しかしながら、中核企業の生産の海外シフトや円安による原材料等の輸入価格上昇、また、電気料金値上げ、消費税増税によるコストアップ等、中小企業等の経営環境は依然不透明感を残したままである。

一方、生産分野では、経営統合した新日鉄住金が、今後の国内生産能力維持のための高炉の拡大改修を進め、安川電機は、本社・八幡事業所を産業用ロボットの本体製造を手がけるマザー工場として拠点化を進めている。研究開発分野では、「知の溶鉱炉」を標榜する北九州学術研究都市がすでに10年の歴史を重ねている。

今、経済・社会のパラダイムシフトが進む中で、改めて、ものづくり立国成立の基本条件を守り、世界で競争できる産業の基盤づくりが、北九州から始まろうとしている感がある。

さらに昨年は、明治の日本産業革命遺産群の世界遺産登録に向けた取り組みも本格化し、歴史的建造物等の保存、活用に向けた意識も高まってきている。環境未来都市と合わせて、北九州の地域再生の新しいブランドの創生が期待される場所である。

北九州は、培われた多様な産業技術を継承しつつ、これからの世代の人々にとって誇れる、精神的にも物質的にも豊かさを持ち続ける、存在感のある地域を目指して行かねばならない。

KPECも、平成元年の財団設立から四半世紀にわたり、北九州市の活性化のための各種の取り組みを実施してきた。

今日、国や地方自治体の行政改革が叫ばれるなか、「新しい公共」による地域づくりの方向等も示され、地域社会の中から新しい産業や雇用機会を生み出そうとする動きも活発化してきた。

25周年の節目を終えたKPECにも、その組織的特性と事業実績を踏まえ、改めて、これからの北九州市の再生と活性に向け、考え、行動する産学官民の連携軸としての役割が期待されている。

こうした環境を踏まえて、平成26年度のKPEC事業は、中核事業である「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、「北九州の企業人による小学校応援団事業」、「1000人の夢資金事業」を中心に、産学官連携による新しい地域活性化事業を推進する。

また、「もったいない総研事業」については、事業創設の趣旨とこれからの時代や地域のニーズ踏まえて事業化の方向を再検討することとする。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー(KIGS)の管理、運営については、「人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出」という設置目的の実現を目指すとともに、KPECの組織環境を生かした地域連携による事業運営の環境づくりをする。

また、こうした事業の拡充に対応した事業運営体制の整備、財務体質の改善等、KPEC運営についての環境整備も並行して進める。

平成26年度の事業計画は次のとおりである。

II. 公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

KPEC10周年を期して創設、運営してきた「もったいない総研」事業を総括し、時代や地域のニーズ踏まえて、KPECとしての事業化の方向を検討すると共に、環境未来都市の構築に向けた環境づくり支援を行う。

1) 「もったいない総研」の再編にかかる企画研究事業

もったいない総研を設立して15年が経過した。改めてその設置趣旨を確認し、新しい観点でKPECならではの事業企画と事業化についての検討を行う。

(1) 「もったいない」をキーワードとした地域活性化事業の企画開発と事業化研究

「もったいない総研事業検討会」を設置し、日本独特の生活概念である「もったいない」の意味を問い、地域づくりへの活用の方途を研究し、KPEC事業としての事業化の検討を行う。

2) 環境未来都市構築支援事業

(1) 「エコっパー」のブランディング及び普及にかかる企画・研究の実施

KPECが開発した「エコっパー」のブランディングと普及のための仕組みづくりについて、今後の方向性と事業化の方法についての検討を行う。

(2) 子供の環境教育支援事業

子供の環境教育支援を目的に、大分製紙からの寄付金（「エコっパー」寄付金）を北九州市PTA協議会が実施する環境教育事業支援金として寄付を行う。

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州産業人材育成フォーラム事業

地域の中堅・中小企業の経営力強化と産業人材の育成をすることを目的に「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産学官協働による産業人材育成事業を企画・実施する。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

地域工学系大学の新卒大学生を対象にした「地域連携型インターンシップ事業」の地域システム化の推進と事業の拡充を図ると共に、「インターンシップ研究プロジェクト」を編成しインターンシップの実践的活用研究と事業開発を推進する。

① 地域連携型インターンシップ事業の開発・実施

i) 産学連携によるインターンシップ事業の実施

地域4工学系大学・北九州高専と中堅・中小企業の自立型連携によるインターンシップ事業を拡充する。(目標:参加校;5校、参加企業100社、参加学生;200人)

ii) インターンシップの実践的活用事業の開発、事業化検討

インターンシップ研究プロジェクトにおいて、研究型、PBL型インターンシップ事業及び海外インターンシップモデルの開発等、インターンシップの機能をより実践的に活用した事業企画、研究を行い、「地域連携型インターンシップ・ビジネスモデル」の拡充を図る。

② 「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成

インターンシップ関連情報のデータベース化を推進し、企業勧誘ツールとして「インターンシップ事業」のガイドCD-ROMを作成、配布する。

③ 「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州商工会議所が推進する産業観光事業と連携し、地元企業の理解促進と社会人基礎力の向上を目的とした企業見学ツアーを企画、実施する。

(目標：参加校；4校、実施回数：4回、参加者；200人)

(2) 社会人育成プログラムの企画、運営

「社会人プログラム開発プロジェクト」を編成し、中堅・中小企業の中核専門人材及び経営管理人材の育成、リカレントを目的に、地域大学の制度・環境を活用した「社会人向け人材育成プログラム」の開発及び事業化を実施する。

① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

i) 北九州ドクターチャレンジプログラムの編成

九州工業大学の社会人プログラムを活用した中小企業の中核専門技術者の博士号取得のための環境開発を行い、地域システム化を推進する。

ii) 北九州テクニカルカレッジ事業(仮称)の企画、開発

地域の中小企業の技術人材のリカレント教育と企業現場の技術力向上を目的に、地域大学連携による出前講義の企画、開発を行い、地域システム化を推進する。

② 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

i) 「MBAサテライトフォーラム」の開催

北九州市立大学 K2BS と連携して地域中小企業の経営・管理者育成のための公開講座を企画実施する。

ii) 「経営者のためのビジネス講座」の開催

北九州市立大学 K2BS、中小企業基盤整備機構九州本部、中小企業大学校直方校等と連携して「経営者のためのビジネス講座」を実施する。

iii) MBAホルダーによる白熱講座の企画・開発、実施

北九大大学院MBAホルダーである企業経営者による実践型キャリア形成カリキュラムの企画、開発を行い、地域の大学生を対象にMBA白熱講座を実施する。

iv) 中小企業経営者のための車座塾の企画・開発、実施

「経営継承」をテーマに、中小企業経営・管理者を対象にした経営車座講座を企画、開催する。

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究

高度産業人材の基盤となる小・中・高生を対象にした早期工学教育に関する教育環境及び地域システムを開発するため、「青少年プログラム研究プロジェクト」を編成して、北九州市におけるソリューション機能の構築と事業の体系化を研究する。

① 早期工学教育の実態調査と事業化研究の実施

i) 早期工学教育実施状況の調査及び事業連携システムの開発

北九州イノベーションギャラリー等の関連機関及び地域企業が実施する早期工学教育事業の実態調査と体系的整理及びマッピングを行い、事業の体系的実施に向けた環境づくりを実施する。

ii) 地域企業の技術による早期工学教育のモデルカリキュラムの開発

地域企業の特徴ある技術をコンテンツにして早期工学教育のモデルカリキュラムを編成し、実践的な活用に向けた環境づくりを行う。

- iii) 地域企業経営者による「ものづくり・キャリア教育」プログラムの開発、試行
フォーラム登録企業の経営者等による「ものづくり・キャリア教育」プログラムの開発を行い、小学校応援団の仕組みを活用した出前事業として試行する。
- ② 藤田哲也博士をコンテンツにした青少年特別プログラムの企画・研究
 - i) 藤田哲也博士をコンテンツにした道徳授業カリキュラムの作成
小学校の理科研究会と連携して、藤田哲也博士の生涯と偉業をテーマにした小学生向けカリキュラムの開発と活用環境づくりを行う。
 - ii) 藤田哲也博士展の企画、開催
北九州イノベーションギャラリーと連携して、「藤田哲也展」を企画、開催する。
- (4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備
フォーラム事業の運営基盤としての企業会員の募集と企業部会の編成を行うと共に、事業の周知のためのプロモーション事業を実施する。
 - ① フォーラム企業会員の募集登録の促進
フォーラム事業を協働する地域企業の会員登録を進め、企業のフォーラムの運営基盤の構築を推進する。
 - ② 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催
産業人材育成フォーラム事業への参画と大学関係者と企業経営者の顔の見える交流を促進するためのインセンティブ事業を実施する。
 - ③ 北九州地域企業対象学内説明会の開催
地場中堅・中小企業への就職機会の創出を目的に「産業人材育成フォーラム」関係企業を対象にした大学内企業説明会を九州工業大学等と協働で企画・開催する。
 - ④ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用
フォーラムのホームページを活用して、産業人材育成フォーラム関連情報を集約発信すると共に、産業人材育成に関する関係機関の情報等の集約を行い産業人材関連情報のソリューション機能の向上を図る。

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書（平成25年4月1日）」に基づき、(公財)北九州活性化協議会及び市教育委員会と連携し、小学校校長会、PTA協議会等と協働して、北九州地域の有志企業が参加する「北九州の企業人による小学校応援団」事業を企画・実施する。

(1) 保護者に対する支援

① PTA活動支援

PTA協議会が提唱している「PTAの日」への企業従業員（保護者）の参加について、小学校応援団参加企業に協力要請を行うとともに、PTA活動の活性化に向けた支援活動を行う。

② 「親学」支援

家庭教育の重要性や学校の現状等の理解促進を目的とした「親学」支援を行う。

i) 講師派遣

子育て、健康、まちづくりなど多様な話題が提供できる講師の確保を行うと共に、

保護者研修会等への講師派遣を行う。

ii) 企業における「親学」推進

市教育委員会と連携して、小学校応援団参加企業の従業員を対象にした「親学」講座の実施環境づくりを行う。

(2) 児童の学習支援

① 出前授業

小学校応援団の参加企業が経験豊かな講師を派遣することで、主として企業の役割や仕事の意義、環境への取り組みなどの具体例を示し、児童へ、これらの理解を深め勉強の必要性やその活用についての気づきを与える。

② 体験・見学受け入れ

児童が働くことの意義や企業の役割を学ぶキャリア教育の場を提供する。

(3) 教職員の研修支援

① 講師派遣

教職員の能力向上等のニーズの把握と企業サイドの人材発掘を行い、教職員研修に小学校応援団参加企業の社員を講師として派遣する。

② 体験研修受け入れキャリアアップ支援

教員採用10年次体験研修の受け入れなど、教職員のキャリアアップを支援する。

(4) 小学校応援団事業の拡充

① 支援対象校の拡大

モデル校13校を対象に実施している講師派遣及び体験受け入れ等の支援事業の実施対象校を40校に拡大する。

② 学校担当コーディネーターの編成

シニアネット北九州、夢追いバンク等の協力を得て、学校担当コーディネーターの編成を行い、小学校と企業との情報交流の橋渡しなど事業の円滑な運営を図る。

③ 小学校応援団参加企業の増強

平成25年度に引き続き、小学校応援団参加企業を増強し(25年度当初151社、目標300社以上)、支援体制の強化を図る。

④ 支援メニューの拡充と講師登録の推進

平成25年度に引き続き、企業等の支援メニューの拡充を図るとともに、出前授業や教職員研修等の講師の人材(経営者、技術者、専門家など)情報を蓄積する。

(5) 小学校応援団事業の運営環境整備

① 三者連絡会議の運営

市教育委員会・KPEC・小学校応援団との三者連絡会議を定期的で開催し、事業の円滑な運営と関連情報の共有を図る。

② 事業運営体制の改正

「北九州の企業人による小学校応援団」事業を、市教育委員会とKPECの負担金による独立事業運営体制へ移行し、事業の実施効率と中長期的な体制づくりの基盤整備を行う。

(6) 応援団事業の広報、プロモーション事業の実施

市教育委員会、PTA協議会等と連携し、地域の企業や学校関係者に対する小学校応援団事業の周知を図るため、パンフレット、ポスター等の広報ツールの作成及び各

種事業を通じた広報プロモーションを実施する。

4. 都市格（教育力・文化力）を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

北九州市の都市格向上を目的として、教育および文化分野における市民活動への助成を行う「1000人の夢寄金」事業について、体制整備と認知度の向上を図る。

(1) 「1000人の夢寄金」募金事業

寄付者により構成する「1000人委員会」の組織強化を図り、これを基盤にした1口3000円の寄付金募集の拡大を図る。

① 寄付募集体制の確立

- i) 寄付者を中心に編成した「1000人委員会」を核として、広く募集できる体制を確立する。
- ii) 遺贈、香典返し、チャリティー事業など寄付金受入れ方法の多様化を研究し、KPECの寄付事業と連携した指定寄付の拡大を図る。

② 寄付金受け入れ体制の構築

- i) 寄付金の管理と効率化を促進する体制を整備し、寄付者サービスの向上を図る。

(2) 「1000人の夢寄金」助成事業

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて助成先の募集及び選定方法の研究を行い、文化と教育分野で活躍する将来性のある団体及び個人に対する助成事業の拡充を図る。

① 助成事業の募集

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえた、将来性のある団体及び個人の応募を増加させるため、NPO等の組織的ネットワークを活用した連携システムの編成等の仕組みづくりを行い、助成事業の拡充を図る。(平成26年度より年1回5月頃)

② 助成先の選定

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえ、「1000人の夢寄金・審査委員会」による公平、公正、公明性ある助成先の選定を行う。また、専門アドバイザーの編成を行う。

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① ホームページ及びFacebookの運営

ホームページおよびFacebookにて、寄付者情報、助成先情報、その他活動情報等をタイムリーに発信する。

② 「1000人の夢寄金」事業報告会の開催

寄付者や助成先団体を集めて報告会を開催し、助成先の団体・個人を認知させると共に新たな寄付者・助成先を開拓する。(年1回)

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

5. まちづくり推進事業

1) まちづくり事業

(1) まちづくりの調査研究事業

公益財団法人としての組織的環境を活用し、「新しい公共」による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化の方向性を検討する。

①「KPEC事業開発研究会(通称:新しい公共研究会)」の編成

「もったいない総研」事業の再検討を中心として、KPECの運営目的を踏まえた地域活性化に資する「新しい公共」事業の研究、企画、開発を行う。

(2) ABLEサロンの開催

地域社会の課題や地域政策などを会員企業及び地域活性化に取り組む市民等と共に学び交流を促進することを目的として「ABLEサロン」を企画、開催する。

(3) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行とホームページの運用を行う。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。

・発行回数 : 原則として、1回/年(5月)

・発行部数 : 2000部程度

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図りKPEC事業活動情報をタイムリーに発信する。

2) 地域づくりネットワークの推進

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局:KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

①「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催

我が国を代表する各界のリーダーを招聘し、地域企業の経営革新に資するトップビジネス講演会「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を共催する。

② 協力事業の実施

構成団体の組織運営に関する情報交換、相互協力による事業実施及び、協働事業の研究等、地域活性化に向けた実践的な環境づくりを行う。

(構成組織) 北九州商工会議所、(公財)北九州活性化協議会、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会(一社)西日本工業倶楽部、(一社)北九州中小企業経営者協会、(一社)北九州青年会議所、(一社)北九州青年経営者会議

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。(企画部会長:小嶋理事長)

(3) 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー（KIGS）は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、北九州地域、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、（3）技術革新（イノベーション）の機会創出を図っていく。

平成26年度は指定管理期間の最終年であり、事業の集大成を図ると共に平成27年度より始まる第3期指定管理事業を見据えて、北九州市及びKPECをはじめとした地域関連機関との連携を強化し、KIGSの設置目的を踏まえた事業運営体制の整備を推進する。

平成26年度事業計画は以下のとおりである。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

次世代の北九州を支えるイノベーターを育成していくため、小中学生から一般市民まで幅広い世代の教育普及事業を実施する。特にこれまで不十分であった若手技術者や技術系大学生、工業高校、理数系普通高校生などを対象とした教育普及事業にも注力する。

(1) KIGS イノベーションフォーラムの開催

イノベーションフォーラムについては、北九州の産業技術活性化に資する最も重要なイベントと位置づけ、我が国のオピニオンリーダー的人物や先進的実績を挙げているイノベーターを招いて年1回開催する。

(2) 講座、セミナーの企画、開催

① 技術革新講座

特定の産業分野を選定し最先端技術・イノベーションを分かり易く社会へ伝えるイノベーションの実践講座として毎年4～5回開催。平成26年度は住環境分野を取り上げ、住宅や事業系建物に於ける防災、省エネ、安全、快適、長寿命、ライフサイクルコスト等を支える革新的技術開発の最前線を企画予定。

② デザイン講座

KDA（北九州総合デザイナー協会）など連携して、デモと実技を交えた講座を4回開催する。また、10月1日の「デザインの日」前後にシンポジウム、作品展等を開催する。

③ ものづくり講座

普通高校（SSH）、福岡教育大技術系教員養成課程、工科系大学・高専、中小企業新入社員等を対象にしたものづくり研修講座を実施する

④ 実践的技術実習「工房塾」

工業高校生を対象に北九州マイスター倶楽部と連携した実践的スキルレベル向上のための実習「工房塾」を再開する。工業高校生とマイスターとの共同制作プロジェクト、および企業若手向けの技能講習を工房で行う。

⑤ そのほか、KIGS 市民講座や調査研究報告会を適宜開催する。更に『北九州市民カレッジ』へ「北九州のものづくり、歴史と誇り」講座を提案し実施する。

(3) ワークショップ

創造的ものづくりや研究に取り組む市民団体の活動や研究を引続き支援する。

(4) イベント

ものづくりの大切さを、小学生に体感させる「東田サマースクール」や、小中学生の理数教育を高校生や大学生が工作や実験等をとおして理解を深める「世界一行きたい科

学広場 in 北九州」、古代たたら製鉄の体験をとおして毎年多くの感動を与えている「東田たたらプロジェクト」等を継続実施する。

(5) 団体向け講習

来館者や利用者の増加を図る為、修学旅行や企業研修等の誘致活動と併せて、ものづくり体験等魅力ある教育プログラムを実施する。

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

当施設の設立目的である産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）と人材育成を実現するためには、個々の技術に秘められた創意工夫、技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、さらには、技術革新が社会に与えた影響などを分かり易い形で伝える必要がある。

このため、技術の本質を明らかにする調査研究を行い、技術への興味を喚起するような本質的な技術教育プログラムの展開を目指していく必要がある。

(1) 施設研究員及び特任研究員による自主研究事業

北九州の産業技術の中から特定技術を毎年ピックアップして、その技術の変遷の歴史と技術革新の内容を調査し記録を残す。

テーマ（案）：表面処理技術の歴史と発展

(2) 共同研究事業

北九州が育んできた特定の技術領域について、専門家を主任研究員として、技術発達を系統的に調査研究し、社会や文化との相互関係を分析、また重要な実物資料の所在を明らかにすることを目的として、「技術の系統化調査共同研究」を国立科学博物館産業技術史資料情報センターと行う。

(3) 委託研究事業

①年表のギャラリー」の2007年以降の年表(北九州)の更新準備調査

③ 北九州マイスターの暗黙知の形式知化を継続して実施する。

テーマ(案)：(仮称) マイスターによる効果的な技術指導

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

企画展示は、当施設の基本テーマである「イノベーション」を中心にその実例を伝える重要な事業であり、年4回実施（春・秋・冬・春）及び特別展等を企画、開催する。

(1) 実施回数及び時期

区分	開催期間	規模	テーマ（仮称）	概要
春	H26. 3. 21 ～6. 29	中	「（仮称）未来へ夢をつむぐ、せんのチカラ展」	化学繊維を中心にいろいろな繊維の特質と技術、様々な応用を判り易く、現象で見せる（デモ・体験）他にも、天然繊維や地元製品等の紹介をする。
夏	H26. 7. 12 ～9. 15	大	「（仮称）サンダーバード博」	世紀の特撮「サンダーバード」の50周年の節目に、そこで描かれていた未来を通じて、日本の最先端科学技術への理解を深めながら、未来社会の可能性について思い描いて頂く展示である。
夏連動	H26. 7. 12 ～9. 15	連動	「（仮称）地元の先端技術展」	上記に連動して、地元の技術が活かされた未来志向の製品や研究等についてピックアップし普及する、特別展を同時開催する。

秋	H26. 9. 27 ～10. 19	中	「(仮称) 山川健次郎/藤田哲也展」	当地工学教育の礎となった山川健次郎及び、当地から海外へ活躍の場を広げ防災に貢献した藤田哲也について偉人伝的見地から普及するスポット展示を折り込む。
秋	H26. 11. 1 ～12. 23	中	「(仮称) メタルズ!ー金属造形の潮流-展」	金属素材にゆかりの深い地域の博物館・美術館が連携し、古代から現代に至るさまざまな金属造形、金属工芸を展示することで、日本における金属造形の潮流を探る。
冬	H27. 1. 18 ～3. 31	中	「(仮称) 音のふしぎ展」	いろいろな音のメカニズムについて探求・解明すると共に、それらの特質を活かした製品づくりをしてみる。
特別展	多目的スペースにて夏	小	「(仮称) 近代化遺産に見る市内の戦争遺跡展」	明治時代の要塞、昭和の高射砲陣地等、当時の最新の土木技術を導入して造られた遺構が市内に数多く残っている。これら近代化に必要不可欠であった構築物を写真パネル等で紹介。

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

当施設のテーマであるイノベーション、産業技術、デザインに関する映像・図書・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともに、ライブラリーや情報システムを通じて広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

(1) 図書、雑誌、資料等の収集・公開

① 図書・資料の収集

イノベーション、産業技術、デザインに関連する図書、雑誌を中心とし、更に、企画展と関連する図書を収集する。また、産業史資料として社史の充実を図る。

② ライブラリーの運営

利用者の声を反映させるとともに、スタッフの質的向上を図り、学習や調査研究のためのサービス充実に取り組む。

(2) 映像の制作・公開

① 映像の製作

K I G S ならではのデータベースとして、北九州の産業技術の保存継承のための重要技術等の映像データの製作とファイリングを行う。

・テーマ : (仮称)「浚渫技術の先駆者と北九州の港湾整備」

② 映像の公開

企画展、各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。なお、団体客利用時は、団体からのリクエストを優先して上映する。

Ⅲ. 法人運營業務

K P E Cの事業運営の基盤としての経営力強化と運営体制の整備を実施する。

1. 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

財務体質改善計画に従って賛助会員募集を行い、財務、運営双方の経営体質強化を図る。

2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備によりK P E Cが実施する各種地域活性化事業への案内及び情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2. 寄付事業の推進

K P E C事業活動および「公益財団法人」としての税法上優遇措置についての認知度向上を図り、北九州地域における公益寄付の受け皿としてのK P E Cの位置づけを広報し、地域活性化に資する寄付金募集の事業化を検討する。

3. 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」を通じて、「サッカーを通じた青少年育成事業—スポーツ振興チケット」の活用を促進し、K P E Cの青少年育成事業の実をあげるとともに、地域活性化のシンボルである「ギラヴァンツ北九州」を支援する。

4. 新規指定管理事業の検討

平成27年度より始まる第3期K I G S指定管理受託のための計画づくりを行うと共に、新たな指定管理事業の受託について検討を進める。

5. 組織運営体制の強化

1) 運営体制の整備

(1) 事業運営体制の整備促進

4つの主要事業の本格的稼働に伴い連携範囲及び業務量が増大しており、事業運営の外部化等の運営体制の改善、強化を図ると共に、ステークホルダーによる分掌体制の整備促進を図る。

また、K I G S事業については、K P E C産業人材育成フォーラム事業との連携を踏まえた事業運営の環境づくりを行う。

(2) 事務局体制の強化

K P E C事業の周知により社会的評価の向上を図り、K P E C事業に対する地域企業の協力環境を醸成すると共に、雇用延長制度等の実施を踏まえ地場企業の人材活用環境の開拓を行う。

6. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- (1) 理事会の開催 (6月、3月)
- (2) 評議員会の開催 (6月、3月)
- (3) 執行役員会議の開催 (月1回)